

世界の医療団は17ヶ国に活動拠点があり、74の国や地域でプログラムを実施しています。

日本はアジアの拠点として、3ヶ国で3つのプログラムを実施しました。



# 世界の医療団

## 2021年度 年次報告書

2021年1月1日～12月31日

### 「誰もが治療を受けられる未来を」

"POUR UN MONDE OÙ CHACUN PEUT ÊTRE SOIGNÉ"

#### ●日本事務局 理事

(五十音順)※2022年3月末時点

石原 恵	看護師
磯村 尚徳	外交評論家
ガエル・オスタン(理事長)	PMC株式会社 代表取締役
大浦 紀彦	形成外科医
佐藤 直	ワープジャパン株式会社 代表取締役
瀬古 篤子	株式会社ヴィジョン・エイ 代表取締役
ダビッド・パトリック(副理事長)	麻酔科医
寺島 左和子	形成外科医
森川 すいめい	精神科医
山田 信幸	形成外科医
与座 聰	形成外科医

#### ●事務局スタッフ

(五十音順)※2022年3月末時点

安達 洋子	ファンドレイザー(ドナーリレーション)
阿部 さやか	ファンドレイザー(ドナーリレーション)
石井 夕美	総務・経理マネージャー
石川 尚	広報マネージャー／証言活動担当
伊藤 韶恵	マーケティングアシスタント
小川 亜紀	プロジェクトコーディネーター(ラオス事業)
木田 晶子	メディカルコーディネーター(ロヒンギヤ事業)
武石 晶子	プロジェクトコーディネーター(ハウジングファースト東京プロジェクト)
富岡 亜矢子	ファンドレイザー(法人パートナー、イベント担当)
中嶋 秀昭	プロジェクトコーディネーター(ロヒンギヤ事業)
松井 智美	ファンドレイザー(個人支援者担当)
マジョリ・メシニヤック	マーケティングコーディネーター
米良 彰子	事務局長
矢野 めぐみ	プロジェクトコーディネーターアシスタント (ハウジングファースト東京プロジェクト)

世界の医療団 日本は2020年に  
設立25周年を迎えました



#### ●沿革

- 1995年 阪神大震災の発生を受け、フランスのNGOのメドゥサン・デュ・モンド(Médecins du Monde)が神戸で活動  
1996年 「スマイル作戦」に与座聴医師が日本人として初参加  
2000年 特定非営利活動法人(NPO)の設立認証を獲得。登録名を「メドゥサン・デュ・モンド ジャパン」とする  
2007年 認定特定非営利活動法人の認定を受ける。翌年以降の税法上の優遇措置(寄付金控除等)の対象となる。  
2010年 初めての国内プロジェクトとして、東京プロジェクト(現・ハウジングファースト東京プロジェクト)を開始  
2011年 東日本大震災発生を受けて、岩手県大槌町へ。団体として初めての国内緊急支援を行う  
2012年 ラオスで小児医療強化プロジェクトを開始。世界の医療団日本として初めての単独の海外事業  
2017年 ロヒンギヤ緊急医療支援を開始

#### 2021年度活動報告書

発行人 ガエル・オスタン  
発 行 2022年4月  
発行所 世界の医療団(認定NPO法人)  
特定非営利活動法人 メドゥサン・デュ・モンド ジャパン  
Médecins du Monde Japan  
〒106-0044 東京都港区東麻布2-6-10麻布善波ビル2F  
TEL: 03-3585-6436 FAX: 03-3560-8073  
E-mail: info@mdm.or.jp  
ホームページ: <https://www.mdm.or.jp>  
Facebook: <https://www.facebook.com/mdmjapan>  
Twitter: [https://twitter.com/mdm\\_jp](https://twitter.com/mdm_jp)



東池袋中央公園で開催している無料医療相談会



## 支援者のみなさまへ

日頃より世界の医療団の活動にご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

新型コロナウイルスは世界中でさまざまなインパクトを与えながら現在も続いている。それは社会に潜んでいた問題を表面にあぶりだした形となりました。最も深刻な影響を受けたのは社会的弱者と言われている人々です。そんな人々が医療につながるようにするにはどうすればいいか。ラオスで、ロヒンギヤの難民キャンプやホストコミュニティで、そして池袋で、関係者と協議し、一緒に新しい取り組みにもチャレンジしてきました。

頻発する自然災害や深刻化する格差の問題など、もはや遠い国のことではなく、身近なものになってきました。この度のウクライナで起きていることは命の危機であり重大な人権侵害です。世界の医療団はチームを編成し、ネットワーク一丸となりウクライナ国内外で活動を始めています。2015年からウクライナで活動して培った信頼関係やノウハウは、今の活動の元になっています。

そして、注目を集める新型コロナやウクライナの問題の影に、高い死亡率を占める非感染性疾患や、ミャンマーの問題などが依然として横たわっています。私たちはともすれば忘れ去られかねない問題にもしっかり向き合い、こころや身体に傷をおった人々に寄り添い、活動を続けていきます。

すべての人が必要なときに適切な医療につながれるよう、みなさまの引き続きのご協力をお願いいたします。

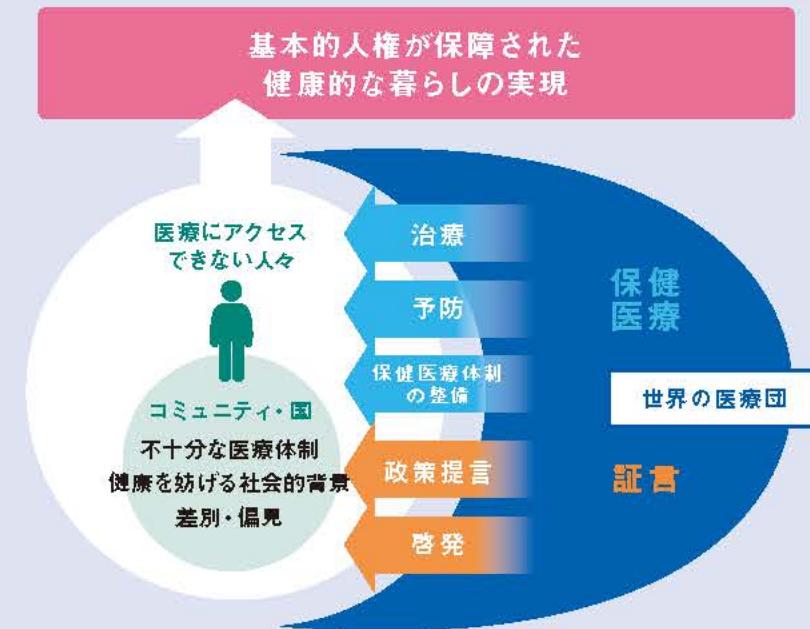
世界の医療団 日本  
理事長 ガエル・オスタン



医療を受けられる権利を  
すべての人に――

## 世界の医療団の活動

誰もが自ら持つ権利として保健医療サービスへアクセスでき、心身ともに健康的な暮らしが実現する世界をつくります



## 世界の医療団の使命

### 保健医療

世界中どこであっても、誰であっても、公平で適切な保健医療サービスへのアクセスは生まれながらに有する権利です。国籍、人種、民族、思想、宗教などのあらゆる壁を越え、心身の治療に加え、持続して健康な状態を保つための予防や健康知識の普及、公的な医療基盤の構築などを中心に、保健医療・公衆衛生分野において活動しています。

### 証言

必要な保健医療サービスにアクセスできない原因、保健医療支援を実施する上で障壁となるもの、人権を侵害する現状や事実について証言します。課題に直面する人びとの声や現状を伝える素材を集め、多くの人々に向けて情報発信と啓発を行い、課題の解決のために行動を起こすことを促します。また、保健医療へのアクセスを阻む状況を根本的に改善するため、政策提言を行い、仕組みを変えるよう働きかけます。

緊急支援 → 中期的な支援 → 長期的支援

**保健医療**

#### 治療

- ・疾病・ケガの治療
- ・メンタルヘルスケア
- ・リプロダクティブヘルスケア
- ・医薬品の整備

#### 予防

- ・健康教育
- ・ハウジングファースト型支援
- ・ハーミリダクションアプローチ
- ・医療スタッフの育成
- ・医療施設の運営支援
- ・エンパワーメント

#### 保健医療体制の整備

### 証言 (情報収集と発信)

- ・人権が侵害されている社会を変えるための行動を促す啓発
- ・国、国際機関などへ、保健医療を阻害する仕組みを変えるための政策提言

基本的人権が保障された  
健康的な暮らしの実現

## 目標実現までのロードマップ

紛争、自然災害や感染症などの危機的状況時に医療チームを派遣し、現地の医療機関と連携しながら、迅速かつ効果的に医療を提供。また、健康を回復した人びとがその状態が持続できるよう、健康知識の普及、衛生的な環境づくりなど予防活動を行います。さらに、医療スタッフの育成や医療施設の運営支援など持続可能な医療システムの構築を目指します。活動にあたって、難民や移民、性的マイノリティ、女性や子どもなど、社会的に弱い立場にある人々が差別や偏見にさらされることなく医療にアクセスできるよう支援します。当事者へのエンパワーメントに加え、コミュニティ、社会に向けて、多様性を尊重し、それぞれの権利を認め合うよう啓発。現地コミュニティの人びとが主体となって政策提言を行えるようサポートします。

## 活動理念

**社会正義** 医療サービスへの平等なアクセス、基本的人権の尊重、連帯意識の共有を希求します。

**自立支援** すべての人びとが自己の健康に対する当事者となり、自らの権利を行使できるよう支援します。

**独立性** すべての政治、宗教、経済による権力、利害から独立しています。

**コミットメント** 献身的に、そして高いスキルと専門知識、職業倫理を備えたプロ集団として活動します。

**バランス** 国内外での活動、緊急と中長期プログラム、医療と周辺サービス、官民の資金、それぞれのバランスを尊重します。

2021年度の活動

## [ 医療支援 ]



世界の医療団のネットワークでは、  
世界各地で紛争や暴力、自然災害、貧困に苦しむ人々の  
命と健康を守る活動に力を注ぎました。



ギリシャ レスボス島内を走行する移動診療車(モバイルクリニック)

### ギリシャ レスボス島

#### 欧洲の入り口として世界中から難民が集まる島での医療支援。 新型コロナウイルスのワクチン接種も促進

ギリシャのレスボス島には欧洲最大規模の難民キャンプがあり、アフガニスタンをはじめ70ヶ国以上の国々から難民が集まっています。2020年9月に発生した大規模火災後に急遽建設された、水道や電気設備も整っていない新しいキャンプで、世界の医療団はいち早く医療支援を開始しました。移動診療車でケアを必要としている人々の元へ赴き一次診療を行い、必要な場合には医療機関への紹介(リファー)も実施。性と生殖に関する健康のケア、ジェンダーに基づく暴力の被害者のこころのケアも行いました。2021年6月には、他の団体と共に新型コロナウイルスのワクチン接種キャンペーンを実施し、5日間で372人がワクチン接種を受けました。ワクチン接種に関するチラシも作成して不安を取り除き、希望する人へのワクチン接種を促進しました。

6500人

一次診療受診者

(うち5歳未満児680人、女性3200人)

21回

性と生殖に関する健康の  
ワークショップ開催

1万人

新型コロナウイルス  
予防啓発受講者



チラシを使った新型コロナウイルス感染予防啓発



### シリア

#### 10年続く内戦。医薬品の提供を行いながら、 シリア国内に留まる人々の医療を支える

2011年に勃発してから、10年以上経った今も続いているシリアの内戦。世界の難民のうち、シリア難民は最も多い1228万人<sup>※1</sup>を数えます。うち、約55%にあたる670万人は、シリアで国内避難民となり、残る人々は周辺国へと逃れています。シリア国内に留まっている人々は、日々の爆撃におびえながら、水も食料も十分ではない環境で暮らしており、必要な医療ケアも受け切ることができない状況下にあります。

世界の医療団では現地のニーズに応える医薬品の提供を行いながらシリア南部の医療機関をサポートし、一次診療やこころのケアにあたりました。

※1 UNHCR、2020年10月現在

のべ  
7万2194人

一次診療受診者  
(2021年4月～9月)

9

サポートした  
医療機関

207人

こころのケア  
対象者

## 現地医療機関、地元市民団体と共に、 中米移民に保健医療アクセスを

ホンジュラス、エルサルバドルなどの中米諸国では、干ばつなどの影響で十分な食料がなく、ギャングなどの暴力組織が勢力を伸ばし、政情不安も続いています。そのため、故国を離れる人々が後を絶ちません。メキシコ南部の都市タパチュラには、アメリカに入国できずに行き場を失った年間50万人を超える人々が押し寄せており、現地医療体制の対応能力を超えて心身のケアを必要としています。

世界の医療団では技術指導や研修を通じて公的医療機関をサポートし、ジェンダーに基づく暴力の問題に取り組んでいる地元市民団体の組織的能力の構築(キャパシティビルディング)も実施。増加するジェンダーに基づく暴力と、性と生殖に関する健康啓発も実施しました。



11

技術指導や研修を通じて  
サポートした公的医療機関

7団体

組織的能力の構築  
(キャパシティビルディング) 支援を受けた地元市民団体

480人

ジェンダーに基づく暴力、  
性と生殖に関する  
健康啓発を受けた移民



テントで生活する移民



ジェンダーに基づく暴力・性と生殖に関する健康啓発



### パキスタン

#### 妊娠・出産に関する女性たちの選択を尊重し、彼女たちの健康を支える

15歳から19歳の若い女性のおよそ12人に1人が妊娠・出産を経験しているパキスタン。そのうち約4割が医療者の立ち合いのない出産で、出血や感染症などで命を落とす事例が相次いでいます。妊産婦死亡率は日本の28倍に達しています。また、夫や義母の許可がなければ女性が一人で医療機関を受診することさえできません。女性が身体的・精神的・社会的な健康を維持し、子どもを産むかどうか、いつ産むか、どれくらいの間隔で産むなどを自ら選択し、決定する権利が十分に保障されているとは言い難い現状があります。世界の医療団は、新型コロナウイルス感染予防啓発を含め、妊産婦検診、医療従事者立ち合いの出産などを通じて産科施設を支援。「生まれてくる子どもはすべて望まれた子どもである」という基本理念に沿った、若年層向けの性と生殖に関する啓発教育も行いました。この研修を通じ、女性が自ら選択する、そしてその選択が尊重され健康に生きることができるようサポートしました。



性と生殖に関する健康啓発

1万7064人

妊産婦サポートを  
受けた女性

41

サポートした  
産科施設

36機関

新型コロナウイルス  
感染予防具の配布

## 2021年度の活動



## バングラデシュ(ロヒンギヤ)

### 感染症対策とともに、 非感染性疾患予防にも注力

バングラデシュ南東部に位置するコックスバザール県の難民キャンプでは、ミャンマーから逃れた90万人以上のロヒンギヤの人々が生活しています。周辺地域住民も対象に、昨年から引き続き新型コロナウイルス感染症予防対策事業を実施しました。人々の信頼の厚い宗教指導者に協力してもらい、予防啓発のための情報を伝えたり、外出の制限された女性には家庭訪問で伝えるなど、現地の宗教的・社会的慣習に即した活動を展開しました。また、バングラデシュでは非感染性疾患が原因で亡くなる人は全死亡者の67%にも上り、コロナ以前から大きな課題でした。そこで2021年3月からは日本NGO連携無償資金協力を得て、非感染性疾患予防事業を実施。40歳以上の高リスク世代と罹患者5000人以上を対象に、健康教育を実施しました。非感染性疾患予防には家族や地域のサポートが欠かせないため、家族にも同様の健康教育を実施。同時に、診療所の対応能力を向上させるために、スタッフへの研修と資機材の提供を行い、コミュニティが一丸となって取り組める体制づくりに注力しました。



非感染性疾患に関する健康教育に参加した対象者

**7238人** **6564人**

40歳以上の高リスク世代と罹患者 その家族

**43人**

育成研修を修了し、事後テストで8割以上を  
取得したスタッフ・ボランティア数

## ラオス

### 若者には動画を活用してSNSで発信。 予防啓発は対象ごとに最適の方法で

東南アジアで妊産婦死亡率、5歳未満児死亡率が最も高いラオス。世界の医療団が活動する、医療基盤がぜい弱な北部山岳地帯のファバン県ではコロナ感染者増加により、医療システムの破壊や後退が懸念されています。世界の医療団では、コロナをまず予防することで持続的な母子保健サービスにつなげようと、2021年5月から感染予防のための啓発活動を開始しました。対象者を、マーケット利用者、若者、医療従事者、貧困層の4つに分け、それぞれに応じた活動を実施。特に、若者には、4本の啓発動画を制作してTikTokで配信。中・高校にもビデオを設置してもらい、12万8000回以上視聴されて、若者の感染防止意識を高めることができました。情報が届きにくい貧困層は一件一件家庭訪問し、感染予防品を配布するとともに知識を伝えました。また、ファバン県は国内でもワクチン接種率が最低であったため、県の保健局のワクチン接種促進活動をサポート。密になりがちなワクチン接種会場の動線を整理し、安全に効率よくワクチン接種ができるようにアドバイスしました。



**234件**

家庭訪問

**約2500人**

啓発対象者

**約90人**

研修を受けた  
医療従事者・行政機関

**20ヶ所**

支援医療機関  
(県・郡保健局と  
県・郡病院各10ヶ所)



## 日本

### 当事者の声を丁寧に拾い、行政の協力を得て、 2回のワクチン接種会が実現

東京・池袋を拠点に、他団体と協力して実施しているハウジングファースト東京プロジェクト(HFTP)は、ホームレス状態にある人々にまず安定した住まいを提供し、必要な福祉支援につなげ生活再建をめざすものです。2021年度に29回実施した炊き出し医療・生活相談会は、年間の平均利用者数が昨年度の1.7倍にのぼり、長期化した新型コロナ感染症の影響が顕在化しました。世界の医療団は無料の医療相談会を実施するとともに、炊き出しや夜回りの際に、感染予防情報と相談窓口を掲載したチラシやマスク、手指消毒液などが入った感染予防キットを、ボランティアとともに配布。また、今年度の大きな成果として、豊島区と連携し、2回のワクチン接種会が実現できました。事前に対象となる人々の状況を正確に把握するためにアンケートを実施し、314人から回答を得ました。「ワクチン接種を受けたくても接種券が受け取れない」「副反応が起きたときに休める家がないので不安」という声に一つ一つ丁寧に対応。10月と11月にワクチン接種会が実現し、64人が2回の接種を受けることができました。



**1425人**

医療相談  
利用者

**1万6062**

セット

配布した  
感染予防キット数

**46人**

アパート  
転宅者

## [ 証言活動 ]



「東京五輪・パラ五輪期間にかかる住居喪失者支援の緊急要望書」を都庁に提出



学校に通えるような普通の暮らしをしたい、というアイシャの自画像



HFTPで当事者の声を聞き取る

紛争、災害、貧困などで厳しい現実に直面する人びとの現状を伝える証言活動では、6月20日の「世界難民の日」に「ロヒンギヤの若者が伝えたい過去と現在と未来」と題し、若者たちの声をホームページで発信。ミャンマーでのクーデター以降、ますます出口の見えなくなった状況に苦しむ若者たちの切実な声を世界に届けました。また、ユニバーサルヘルスカバレッジ(UHC)の実現に向けて、日本の現状を調査するUHC誓約進捗調査にも協力。HFTPの現場であがった課題を伝えました。提言を盛り込んだレポートは、ウェブサイトで公開されています(※)。7ページでも紹介したHFTPのワクチン接種会は、当事者の声を行政に届け、それらを反映して実現したものです。今後も、このように現場の当事者の声を丁寧に拾いながら、行政への提言活動につなげ、実際に社会の仕組みを変えていくことを目指していきます。

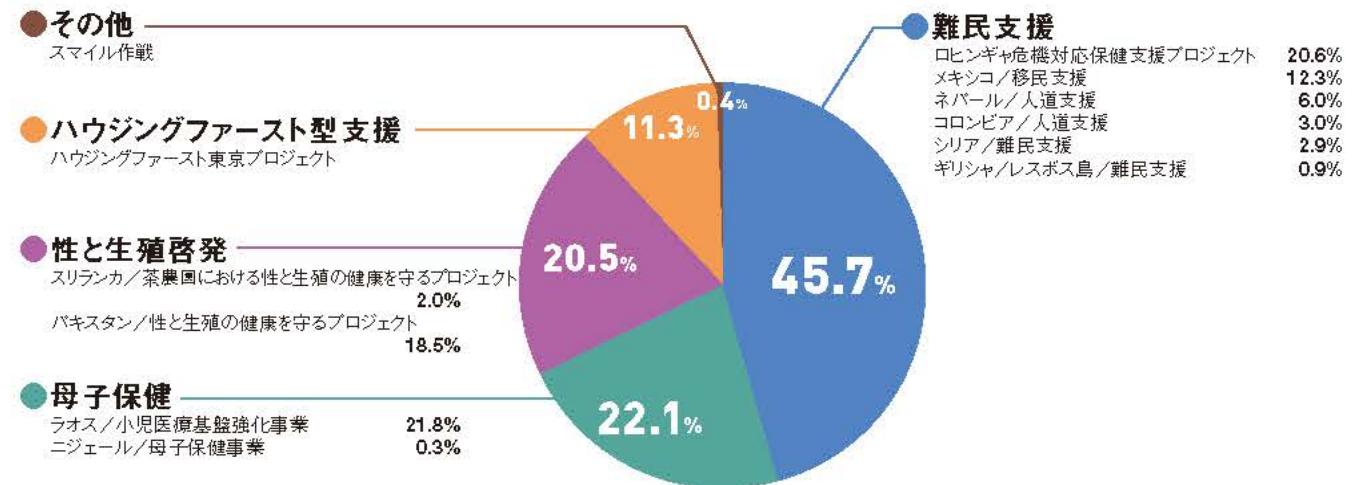
※<https://ajf.gr.jp/globalhealth/healthforall/report/>

●プレスリリース：33本 ●講演・セミナー：12回 ●メディア掲載実績：146件

## 主なメディア掲載

1/26 NHK	路上生活者の支援に長年取り組んできた、精神科医の森川すいめいさんを紹介	9/3 ラオスアバナン県 公共テレビ	世界の医療団 日本の活動紹介
6/8 東京新聞	ネットカフェ難民、路上生活者… ワクチン接種から取り残される弱者たちを救え	共同通信、北海道新聞、 西日本新聞、 沖縄タイムスなど多数	路上生活者にもワクチン接種を
6/25 時事通信社	ロヒンギヤの旗遇なお厳しく	Yahoo!JAPAN、 ロイター、東京新聞、 中日新聞など多数	路上生活者らへ集団接種
7/6 テレビ朝日	スーパーJチャンネル 知られざる接種問題～ 住居ない	10/30	おはよう日本 ホームレスにワクチン接種を
7/26 東京新聞	近くで五輪 違い話 都内の食料配布会 困窮者400人が列	10/31 NHK	ワクチン、ようやく路上生活者に 3時間歩いた男性「やっと打てた」
8/1 神奈川新聞、秋田魁新報 徳島新聞ほか多数	ワクチン接種 路上生活者に情報届かず	11/12 朝日新聞	ワクチン接種券届かぬ人にも 「誰一人取り残さない」支援団体や自治体奔走
8/23 読売新聞	ホームレスの接種加速へ	12/8 Yahoo!JAPAN	東京NEWS2021(8) 家なき人のワクチン接種 取りこぼし解消が課題
8/26 TBSラジオ	「薪上チキ・Session」特集「コロナ禍のホームレス 状態・生活困窮者支援の現状と課題」	12/31 東京新聞	

## 2021年度に実施した各プロジェクトの費用の内訳



## 2021年度 [ 財政報告 ]

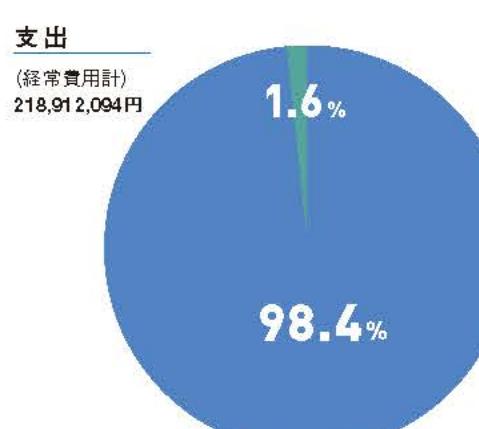
世界の医療団は、1名の監事による会計および業務の内部監査と、監査法人による会計監査を毎年受けています。

収入面では、対面を避けオンラインで緊急支援のお願いをしました。イベントを通じた寄付や新規会員登録の呼びかけにもオンラインを活用し、昨年度の99.8%となりました。

支出面では、新型コロナウイルスによる移動制限が続いたため、旅費交通費が予定より少なく、全体で昨年よりさらに抑えることができました。

## 正味財産増減計算書 (2021年1月1日～2021年12月31日)

科 目	金 額	(単位:円)
I. 一般正味財産増減の部		
① 経常収益		
② 受取寄付金	141,975,091	
ギャンペーン寄付金	19,482,087	
スマイルクラブ寄付金	87,213,287	
イベント寄付金	567,992	
その他寄付金	34,711,725	
③ 受取補助金等	88,214,459	
民間助成金振替額	50,243,951	
国庫助成金振替額	37,970,508	
④ 受取会費	210,000	
正会員受取会費	210,000	
⑤ 雑収益	3,740,390	
受取利息	1,395	
雑収益(謝礼・足代・為替差益)	3,738,995	
⑥ 商標権使用料収益	801,000	
商標権使用料収益	801,000	
経常収益計	234,940,940	
② 経常費用		
① 事業費	215,433,310	
人件費	55,782,746	
旅費交通費	1,228,595	
通信費	1,717,314	
イベント経費	0	
ミッション経費	106,462,355	
事務用品費	1,002,823	
支払報酬	7,283,362	
リース料	301,514	
保険料	384,534	
業務委託費	21,902,086	
広告宣伝費	1,708,126	
支払手数料	5,458,163	
地代家賃	6,738,081	
水道光熱費	445,283	
車両費	1,441,451	
減価償却費	1,372,160	
参加費	428,093	
諸会費	433,312	
修繕費	18,920	
採用教育費	1,241,740	
雑費	82,652	
② 管理費	3,478,784	
人件費	1,849,830	
旅費交通費	6,778	
通信費	74,757	
事務用品費	136,876	
会議費	0	
リース料	19,246	
保険料	620	
業務委託費	688,731	
支払手数料	175,344	
地代家賃	133,229	
水道光熱費	9,668	
減価償却費	185,493	
諸会費	25,563	
支払報酬	21,612	
採用教育費	79,260	
雑費	1,777	
その他(住民税)	70,000	
経常費用計	218,912,094	
当期経常増減額	16,028,846	
II. 経常外増減の部		
① 経常外収益		
前期損益修正益	215,344	
② 経常外収益		
前期損益修正益	215,344	
固定資産譲渡損	1,865,240	
経常外費用計	1,727,638	
当期経常増減額	3,592,878	
III. 指定正味財産増減の部		
受取補助金等	85,472,359	
一般正味財産への振替額	88,214,459	
当期指定正味財産増減額	△2,742,100	
当期一般正味財産期首残高	143,647,731	
一般正味財産期末残高	156,299,043	
IV. 正味財産期末残高	156,699,043	



# 2021年度 [ 財政報告 ]

## 貸借対照表 (2021年12月31日現在)

科 目	(単位:円)
Ⅰ. 資産の部	
1. 流動資産	
現金預金	194,931,901
貯蔵品	189,903
未収入金	10,423,684
前払費用	2,219,458
前渡金	488,231
仮払金	2,307,607
流動資産合計	210,560,784
2. 固定資産	
(1)特定資産	
医療支援活動指定積立資産	400,000
特定期間合計	400,000
(2)その他固定資産	
①有形固定資産	
建物	96,851
機械装置	46,564
車両運搬具	1
什器備品	1
一括償却資産	13,985
②無形固定資産	
ソフトウエア	36,300
③投資その他の資産	1,059,307
敷金	1,059,307
長期前払費用	760,410
その他固定資産合計	666,910
長期前払費用	93,500
固定資産合計	1,916,568
資産合計	212,877,352

科 目	(単位:円)
Ⅱ. 負債の部	
1. 流動負債	
未払金	26,104,000
未払費用	6,434,158
前受金	22,328,575
預り金	1,213,953
仮受金	27,623
未払住民税	70,000
流動負債合計	56,178,309
負債合計	56,178,309
Ⅲ. 正味財産の部	
1. 指定正味財産	
民間助成金	400,000
指定正味財産合計	400,000
(うち基本財産への充当額)	( 0 )
(うち特定資産への充当額)	( 400,000 )
2. 一般正味財産	
(うち基本財産への充当額)	( 0 )
(うち特定資産への充当額)	( 0 )
正味財産合計	156,299,043
負債及び正味財産合計	156,699,043
負債及び正味財産合計	212,877,352

### 独立監査人の監査報告書(抜粋)



### 支援してくださる人びと

◆寄付者 **4742人** (法人 82団体)  
うちマンスリーサポーター **3640人**  
うち会員 **42人**  
◆ボランティア **77人**

### 支援者からのメッセージ

地球上において、まだ厳しい状況下での暮らしを強いられている人達が居られることに、憤りを感じる部分があります。人権を通しての視点をベースに、いかなる人々もどこにおいても穏やかな暮らしの実現が必要であると思います。これからも頑張って頂きたいと思います。

コロナ禍で日本でも厳しい状況に置かれている方は増加していると思います。そういった方への支援を続けてください。人としての尊厳を守るために活動をお願いします。いつもありがとうございます。これからも頑張ってください。

### ご協力いただいた企業・団体

2021年度にご支援をいただきましたすべての法人・企業のみなさまに対し、改めましてお礼申し上げます。

#### ◆パートナー(五十音順・敬称略)

アサヒプリテック(株)／アメリカン・エキスプレス・インターナショナル・インコーポレイテッド／いちよし証券(株)／(株)エイベックスインターナショナル／エーツーケア(株)／エドワーズライフサイエンス(株)／オリンパス(株)／(株)クニエ／(株)グリーティングライフ／KUROFUNE & PARTNERS(株)／(一財)ザ・プラフ・メディカル＆デンタル・クリニック／(福)秀峰会／小豆島ヘルシーランド(株)／住信SBIネット銀行(株)／ソフトバンク(株)／NIKOLA TESLA K.K.／(一財)日本民間公益活動連携機構／(株)パリューブックス／(株)フェリシモ／フレンチブルーミーティング実行委員会／ヤフー(株)／楽天銀行(株)／リンベル(株)／READYFOR(株)／連合・愛のカンパ

※紙面の都合上、金額・継続期間等の基準による抜粋とさせていただきました。

〈物品サービス〉 エクスコムグローバル(株)／(株)大塚商会

〈イベント協力〉 オトワレストラン／櫻櫻／ザ・キャピトルホテル 東急／ザ・プリンス パークタワー東京／(株)シーエージェント／シャネル(同)／(株)東京会館／名古屋東急ホテル／ヒカリヤニシ／フランス料理文化センター／プレスキル／ムッシュいとう／メゾン タテル ヨシノ／ラ・トゥール／ルヴェ ソン ヴェール駒場／ルヴェ ソン ヴェール本郷

〈プロボノ〉 JPモルガン証券(株)／デロイトトーマツ コンサルティング(株)／ベーカー＆マッケンジー法律事務所／ホワイト&ケース法律事務所／小石和男／小林意匠研究所／水野貴仁

### 法人パートナー募集

世界の医療団はさまざまな法人・企業と連携して世界各地に医療を届けています。

寄付金による支援のほか、コラボ商品による寄付、物品の提供、プロボノなど、多様な協働の方法があります。

お問い合わせ：電話03-3585-6436 E-mail info@mdm.or.jp

### 寄付のご案内

世界の医療団は「認定NPO法人」として東京都より認定されています。世界の医療団へのご寄付は税制上の優遇措置(寄付控除等)を受けることができます。領収書は年間一括で1月下旬に発送します。

#### 毎月の寄付(スマイルクラブ)

継続したご支援により、紛争や自然災害など緊急時でも迅速な対応が可能になります。

ホームページからのお申し込み(クレジットカード利用)▶



#### 単発の寄付

いつでもいくらでも、お気軽に合わせて寄付できます。

ホームページからのお申し込み(クレジットカード利用)▶



#### 郵便振込による寄付

上記ホームページでのクレジットカード決済以外に、郵便局からお振込みもできます。

郵便振替口座番号：00110-8-172839

郵便振替口座名：特定非営利活動法人メドゥサン・デュ・モンド ジャポン

※通信欄に寄付者の方のお名前、ご住所等ご連絡先を必ずご記入ください

#### 遺贈・相続財産・お香典からの寄付

詳細資料をお送りします。事務局までお問い合わせください。

お問い合わせ・資料請求 電話 03-3585-6436 E-mail: leg@mdm.or.jp

◆その他にもさまざまな寄付を受け付けています。詳しくはホームページをご覧ください。



#### 世界の医療団と SDGs(持続可能な開発目標)

世界の医療団の活動は、SDGsが目指す

「誰一人取り残さない(leave no one behind)」社会の実現に貢献しています。

